住ま

Let's リフォーム

西田恭子

一つにまとめ広い空間で快適に

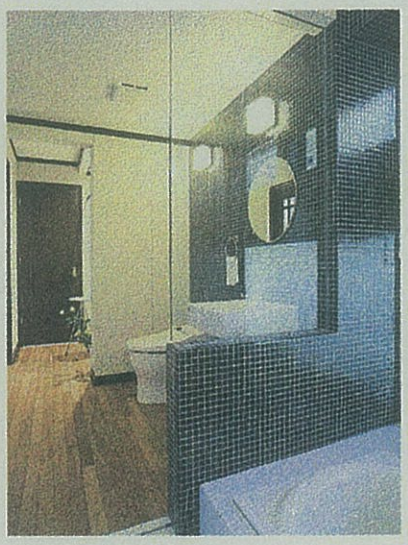
*…浴室とトイレ

「バスタイム！」。この言葉に至福のやすらぎと、癒やされる喜びを感じる人は多いだろう。浴室の滞在時間が1時間。湯量たっぷりの大きい浴槽に身を投げ出し、本を読むことが趣味という人まで現れた。

水回りは、10年たつと不都合で修理・修繕に迫られ、15年たてば旧式といわれるほど移り変わりが激しい。快適さを求めて、適温や適量、掃除が楽でカビが生えず、できたら通風も採光もたっぷりで、さらにはバリアフリー、と要求は続く。

しかも、リフォームを考える人にはいろいろなタイプがある。新築時に決めた壁タイルが大好きで、「全面改装なんてとんでもない！」と思う人。床タイルの割れは気になるし、当時標準の120㌢の浴槽も大きくしたいけれど、あとはこのままで、と主張する。

ユニットバス派は「熱性能も高いし、浴室暖房換気乾燥機はいまや常識。冷たいお風呂場とはさようなら！」といい、在来浴室派は「タイルや石の高級感とトップライトで光も取り込み、気持ちよい開放感が欲しい」という。6畳もの浴室にした人さえいる。



間仕切り壁や扉で細かく分けられていた浴室、洗面・洗濯室、トイレを1つのゾーンにまとめたら明るくなって、ドアの開閉も減り、動線もスムーズになった

画一的だったトイレにも変化が見られる。この10年でスリッパがいらないほどトイレスペースはきれいになった。バリアフリーの考え方も普及して、かつてスリッパ置き場として一段下げた床は不要になった。内開きのドアをやめ、狭い空間に人が倒れても開けられるように外開きのドアが一般的になった。

いまやトイレを不浄の場所ということも少なくなり、汚れないよう男性も座って用を足す「しつけ」まで始まっている。

水回りが総合的に考えられるようになり、「トイレと浴室は完全分離の独立タイプでなくても…」という考え方が出てきた。狭い空間をいくつも作るより、1つにして、広々とした快適さを求め始めた。掃除のしやすさにもつながる。

長くなった建物の寿命と水回りの点検時期は必ずしも一致しないが、せっかくきたリフォームチャンスに、必要に迫られての設備機器の交換だけではなく、ゆとりの空間作りを目指してみてはいかがだろう。

（三井のリフォーム　住生活研究所所長、1級建築士）